

医学教育分野別評価 島根大学医学部医学科 年次報告書 2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2023（令和 5）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は、令和 5 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和 6 年 10 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、令和 7 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和 5 年 10 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

領域 1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 『医の炎』と『医の扉』を再定義し、医学部規則第 1 条の 2 をもって使命としている。
改善のための助言
・ 島根大学憲章を踏まえて使命を整理し、わかりやすく示すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 令和 7 年度中に医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）において、島根大学憲章を踏まえた本学医学部医学科の使命のありようについて検討する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）、教務学生委員会（SMERC-D）、医学教育評価

委員会（SMERC-C）の三部門が SMERCs（Shimane Medical Education Related Committees）を構築し、令和 5 年 4 月より教育施策を実施している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

1.3 学修成果

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 学修成果として、10 項目のコンピテンスおよびその下位項目である 44 項目のコンピテンスを定めている。
改善のための助言
・ 生涯学習への意識と学修技能について、コンピテンスに分かりやすく記載すべきである。 ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを行動規範等に明示すべきである。 ・ 学生や教員がコンピテンスおよびコンピテンシーを十分に理解していないことが実地調査で確認された。学生と教員にコンピテンスおよびコンピテンシーを確実に周知すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 医学部学生行動規範については、令和 5 年度第 6 回医学教育分野別評価専門委員会にて発議および起案を行い(資料 01)、令和 5 年度第 6 回医学教育プログラム委員会 (SMERC-PA) および令和 5 年度第 9 回教務学生委員会 (SMERC-D) での審議を経て (資料 02, 資料 03)、令和 5 年度第 16 回教授会に諮り、『島根大学医学部学生行動規範』として承認された (資料 04)。 ・ 学生に対しては入学時オリエンテーションや年度初めにガイダンスを行い、コンピテンスおよびコンピテンシーの周知を行った。使命、コンピテンスおよびコンピテンシーのポケットサイズカードを配布した。また e-learning にて学生および職員に周知させた (資料 05, 資料 06)。
今後の計画

・ 令和 7 年度中に医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）において、生涯学習への意識と学修技能について、コンピテンシーの改訂作業に着手する予定である。 ・ 新コアカリキュラムの整備を進めた後、コンピテンスおよびコンピテンシーの周知と理解をより深めていく。具体的には、学内および院内における掲示、シラバスやウェブサイトでの周知、カード配布、教員を対象とした FD などを検討している。
改善状況を示す根拠資料
・ (資料 01)令和 5 年度第 6 回医学教育分野別評価専門委員会議事録 ・ (資料 02)令和 5 年度第 6 回医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）議事録 ・ (資料 03)令和 5 年度第 9 回教務学生委員会（SMERC-D）議事録 ・ (資料 04)令和 5 年度第 16 回教授会議事録 ・ (資料 05)使命のカード ・ (資料 06)医学部の教育改革・教育方針ホームページアドレス： https://www.med.shimane-u.ac.jp/education_research/ninsho/index.html

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ コンピテンシーと、臨床研修到達目標の下位項目との関係性をより明確にすることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 令和 7 年度中に医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）において、臨床研修到達目標の下位項目との関連性がより明確となる形でのコンピテンシーの改訂について、各委員の意見を聴取する予定である。 ・ 引き続きコンピテンシーと、臨床研修到達目標の下位項目との関係性を明にしていける。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 使命と学修成果が医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）で策定され、教育にかかわる主要な構成者が参画している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 令和 4 年 9 月に策定された使命および学修成果について、地域医療関係者などからパ

ブリックコメントを募集し広く意見を求めている。
改善のための示唆
・ 他の医療職や患者代表など、教育に関わるより広い範囲の関係者からの意見を聴取することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学教育評価委員会（SMERC-C）において、使命および学修成果の改訂にあたって意見聴取を行う関係者の範囲について検討を行う。 ・ 使命および学修成果の改訂にあたって、より幅広い関係者からの意見聴取を実施することを予定している。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学科カリキュラム・ポリシーを定めている。 ・ 3年次から4年次の医学チュートリアルを中心に、カリキュラムにグループワーク、PBL等のアクティブ・ラーニングを取り入れている。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ ディプロマ・ポリシーおよび島根大学医学部医学科コンピテンス・コンピテンシーにより、臨床医、研究医として、生涯学習を継続して行うカリキュラムを設定している。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.2 科学的方法

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 3年次の研究室配属の内容を充実させ、学生が研究手法とリサーチマインドを確実に身に付ける機会を与えるべきである。 ・ シラバスに、臨床実習で実際に行われている EBM 教育の内容について明記すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)で具体的に議論を行えるように、医学教育評価委員会(SMERC-C)において研究室配属についての評価を行う。 ・ シラバスに、EBM 教育の内容について明記するよう、教務学生委員会(SMERC-D)に要請する。
改善状況を示す根拠資料

・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ カリキュラムに、人工知能（AI）、遺伝子編集技術、遺伝子改変T細胞療法、mRNA ワクチン等の先端的な研究の要素を含めている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 外科医も参加して指導する解剖学実習、臨床検査機器を用いた生理学実習などを実施し、基礎医学の講義・実習で臨床医学を修得するための基本的概念を教育している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 情報科学概論では、人工知能（AI）やデータサイエンスを教育している。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 解剖学において、医療倫理学教育をアクティブ・ラーニング形式で行っている。
改善のための助言

・ 行動科学、医療倫理学は、臨床実習を含めた6年間をととして統轄的にコーディネートし、体系的な教育を行うべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ プロフェッショナリズム・ 行動科学教育専門部会で体系的な教育プログラムを議論し、医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)を経て、全体のカリキュラムに組み込む予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを、行動科学、医療倫理学教育に反映させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)で議論し、全体のカリキュラムに組み込む予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 内科系診療科、外科系診療科、総合診療・ 地域医療学、産科婦人科、小児科、精神科神経科でそれぞれ4週間の診療参加型臨床実習期間を確保している。 ・ 5年次から6年次の「総合診療・ 地域医療学」の臨床実習では、各2名程度が約20の県内の医療機関において、地域住民の健康増進のための体操教室や地域住民のための予防医学レクチャー等を行う機会を設けている。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 基礎医学教育、3年次研究室配属、4年次医学チュートリアル、臨床医学教育等において、科学、技術および臨床の進歩に従ってカリキュラムを調整、修正している。

改善のための示唆
・ 2 年次、3 年次のすべての学生に患者と接する機会を与えることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 基礎・臨床カリキュラム検討専門部会で体系的な教育プログラムを議論し、医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)を経て、全体のカリキュラムに組み込む予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学科カリキュラム・ポリシーを定め、カリキュラムツリーを明示している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 基礎医学、臨床医学それぞれの水平的統合教育、基礎医学と臨床医学の垂直的統合教育を行っている。
改善のための示唆
・ 行動科学および医療倫理学と臨床医学との垂直的統合教育のさらなる推進が望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ プロフェッショナリズム・行動科学教育専門部会で教育プログラムを議論し、医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)を経て、全体のカリキュラムに組み込む予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.7 教育プログラム管理

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 教育カリキュラムの実施に責任を持つ教務学生委員会（SMERC-D）に、学生代表を含めるべきである。
関連する教育活動、改善内容

・ 令和 6 年 3 月 5 日開催された医学部教授会で医学部教務学生委員会規程が改正され(資料 07)、令和 6 年 4 月開催の委員会より学生委員（医学部医学科 2 名、医学部看護学科 1 名）が正式な委員として出席し、討論に加わっている（資料 08）。
今後の計画
・ 引き続き、教務学生委員会（SMERC-D）に学生代表を含め、議論を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 07）令和 5 年度第 16 回医学部教授会議事録 ・ （資料 08）令和 6 年度第 1 回教務学生委員会議事録

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）には、実習協力病院の指導医や地域医療の代表者を含めることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)で議論する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 卒前教育は、医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）、教務学生委員会（SMERC-D）、医学教育評価委員会（SMERC-C）が担当し、卒後教育は卒後臨床研修センターが担当している。卒前教育と卒後教育は医学部教授会、診療科教育担当委員会、病院運営委員会等を通じて適切に連携している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 「島根大学医学部附属病院関連病院長会議」、「医学部地域医療教育連絡会」、「オール島根内科専門医研修プログラム・プログラム管理委員会」、「オール島根外科専門医研修プログラム・プログラム管理委員会」等を定期的に開催し、卒業生の状況、勤務先施設からの要望等について意見交換を行っている。
改善のための示唆

・ 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。 ・ 教育プログラムの改良のために、患者を含む地域や社会の意見をさらに取り入れることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 卒業生アンケート、患者アンケート、地域でのアンケートなどを施行するためのアンケート方法についてなどを、医学教育評価委員会(SMERC-C)で議論し、施行する。その結果を IR 委員会で解析し、医学教育評価委員会(SMERC-C)で評価し、教育プログラムに反映させるべく、医学教育プログラム委員会(SMERC-PA)および下位の専門部会で議論を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 早期体験実習において実習日誌による形成的評価とフィードバックが行われている。
改善のための助言
・ 知識、技能および態度を含む評価をより確実に実施すべきである。 ・ 評価の方法と形式について、それぞれの評価有用性の検証を十分に行うべきである。 ・ 評価の方法および結果に関して、利益相反を防止する制度を整備すべきである。 ・ 学生の評価に対する外部の専門家による精密な吟味をより多く取り入れるべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 卒業試験や学年末試験については試験問題を事前に精査しブラッシュアップをすることで適切な問題形式および試験内容の担保に努めている(資料 09)。 ・ CC-EPOC の評価を客観的に行うために、具体的な評価基準を作成するワーキンググループを設置して、検討を行っている（資料 10）。 ・ 全学年での態度の評価に関して、指導教員体制を見直すワーキンググループを設置し、指導教員による態度評価の方法と方略について決定する予定である（資料 11,12）。
今後の計画
・ 臨床実習では現在 CC-EPOC を用いて確実に評価できる体制を整えている。CC-EPOC のルーブリックの各評価項目が本学の定めるコンピテンス/コンピテンシーのどの項目を達成するかの対照表を今後作成する予定である。 ・ 教職員の親族や利益相反関係にある関係者の親族に対する評価が必要な場合に、進級判定会議や卒業判定会議において利益相反防止のための規定の策定にむけて素案の作成を予定している。ガイドライン作成後は大学の HP 等への掲載などを通じて周知を図る。 ・ 基礎医学および臨床医学チュートリアルにおいては、当該科目の授業内容、レポート内容、および試験問題を別の科目の教員などが評価するような制度を検討する予定である。また、臨床実習においては複数の診療科を 1 つのユニットとして実習を行う。それに合わせて 1 つのユニットを構成する複数の診療科が実習内容や評価方法を相互に評価する制度の創設を検討している。 ・ その他、学生のアンプロフェッショナルな行動については、その場での形成的評価と個別指導を行うと同時に、アンプロフェッショナル評価専門部会で審議され上位組織である教務学生委員会(SMERC-D)とも連携して形成的評価とともに総括的評価にもつなげていく。
改善状況を示す根拠資料
・ (資料 09) 5 年生学年末試験および 6 年生卒業試験・作成要項 ・ (資料 10) CC-EPOC ルーブリックなどの評価の WG 議事録メモ ・ (資料 11) 指導教員体制検討 WG の立ち上げについて ・ (資料 12) 令和 6 年度第 10 回教務学生委員会議事録
質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ CC-EPOC を用いた評価およびフィードバックが、学外臨床実習を含め広く開始されている。 ・ 解剖学実習において、自己省察による態度評価が実施されている。

改善のための示唆
・評価方法の信頼性と妥当性の検証を行うことが望まれる。 ・MiniCEXなどの臨床現場での評価法を活用することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・Pre-CC OSCE および Post-CC OSCE では CATO(医療系大学間共用試験実施評価機構)からのモニターからのフィードバックがあるほか、Pre-CC OSCE および Post-CC OSCE 学内評価者を集めて振り返りを通じて問題や評価の妥当性を検証している（資料 13）。
今後の計画
・一部の定期試験では医学教育評価委員会(SMERC-C)の下部組織である試験問題評価専門部会で平均点、点数分布、正答率、識別指数を算出し試験問題の妥当性を検証する予定である。 ・Pre-CC OSCE および Post-CC OSCE の専門部会や関連部会において IR 室と協力しながら課題別の得点分布、評価者間の一致率（信頼性）の分析を行い、妥当性を検証するようなシステムの構築を検討している。 ・臨床実習で行われている観察評価やレポート作成などの評価についての妥当性の検証について、臨床実習では、複数の診療科を 1 つのユニットとして実習を行うカリキュラム改善が検討されており、この改善に合わせて 1 つのユニットを構成する複数の診療科が観察評価やレポート評価の妥当性の相互に評価する制度の創設を検討している。 ・MiniCEX などの臨床現場での評価法を活用することが望まれる。 現在、MiniCEX は、総合診療科や放射線治療科などごく少数の診療科でのみ行われている状況であるが、臨床実習のカリキュラム改善に合わせて miniCEX を臨床実習中の複数回行うことを検討している。
改善状況を示す根拠資料
・（資料 13）2024 年度臨床実習後 OSCE 振り返り会 議事要旨

3.2 評価と学修との関連

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・教育科目と対応するコンピテンシーが示され、科目ごとに評価法が定められている。
改善のための助言
・学生が、目標とする学修成果を達成していることを、段階的に保証する評価を導入すべきである。 ・学生の学修を促進するために、形成的評価の比重を高めるべきである。
関連する教育活動、改善内容
・なし
今後の計画
・卒業時のコンピテンス/コンピテンシーは策定されているが、各段階におけるマイルストーンは策定されていない。今後マイルストーンの策定に合わせて、そのマイルストーンを達成していることを保証する評価を導入する方針である。 ・形成的評価の機会を高めるようにしていく予定である。
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）

・なし
改善のための示唆
学生に対して、試験問題および解答の開示等によって、公正なフィードバックを行うことが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
令和 6 年度から全ての試験問題および解答を開示することを令和 6 年度第 5 回教授会で決定し周知している(資料 14)
今後の計画
開示が完全ではないので、全科目で達成することを計画する。
改善状況を示す根拠資料
・(資料 14)定期試験の試験問題等の公開に関する申し合わせ 令和 6 年度第 5 回教授会資料

領域 4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 4 種類の「地域枠」を含む多様な入学者選抜方法（一般選抜、学校推薦型選抜、緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜、学士入学）を導入している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を導入し、規則に明示することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 「入学決定に対する疑義申し立て制度」については、島根大学全学で情報公開制度に沿った情報開示手続きにより疑義申し立てにも対応可能な体制が構築され、窓口は島根大学総務部総務課に一本化している。医学部では受験者の試験成績開示については、学務課入試担当が真摯に対応している。情報公開制度ではなく、入学に関する規則に明示するためには、医学部だけでなく島根大学全学での検討が必要であるため、全学会議で議題として取り上げるように調整を図る。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 入学定員 112 名に対し、その教育に必要とされる十分な教員数、施設・設備を有している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 地域における医師不足に対応するため、文部科学省、島根県との協議により、入学定員の増員と新たな入試枠の設定を進めている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 学生の学修および生活に対する支援のため、指導教員制度、医学部学生相談室、保健管理センター等の運用を行っている。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ 令和7年度から4～6学年を担当する指導教員を増員し、指導教員1人あたりの受け持ち学生数を減らした（資料15）。
今後の計画
・ 指導教員体制を見直すワーキンググループを設置予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料15）令和6年度第3回教務学生委員会議事録

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

4.4 学生の参加

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 学生の自治組織である学友会から、学生の代表が医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）と医学教育評価委員会（SMERC-C）に委員として派遣されている
改善のための助言

・ 教育プログラムの管理および学生の諸事項について審議する教務学生委員会（SMERC-D）に、学生の代表者が参加し議論に加わるべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 令和 6 年 3 月 5 日開催された令和 5 年度第 16 回医学部教授会で医学部教務学生委員会規程が改正され、令和 6 年 4 月開催の令和 6 年度第 1 回委員会より学生委員（医学部医学科 2 名、医学部看護学科 1 名）が正式な委員として出席し、討論に加わっている。
今後の計画
・ 引き続き、教務学生委員会（SMERC-D）に学生代表を含め、議論を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 07）令和 5 年度第 16 回医学部教授会議事録 ・ （資料 08）令和 6 年度第 1 回教務学生委員会議事録

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 「IFMSA-Shimane」、「地域医療研究会」、「SCOP」、「キンダーフロイント」など、大学の支援の下で学生による特色ある活動が行われている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学部医学科担当教員、附属病院担当教員、臨床教員を配置するとともに、女性教員比率、常勤・非常勤のバランスを考慮して教員の募集を行っている。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学部の理念に基づき、地域医療を担う人材を育成するための講座（「地域医療教育学講座」、「地域医療支援学講座」等）の設置や教員の配置に取り組んでいることは評価できる。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 新規採用教員や教育関連病院の指導者などを含め、すべての教員がカリキュラムを十分に理解するための方策を構築し実施すべきである。 ・ 医学部における FD の実施方針を明確にするとともに FD への参加を促し、教員の能力開発を推進すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ FD (SD) の促進を行うために、医学科長を部会長とする FD 専門部会が創設された（資料 16） ・ 新任教員のための島根大学医学部医学科の教育概要 FD を開始している（資料 17）。
今後の計画
・ 臨床実習の実態調査を学生及び全臨床診療科および臨床実習先の教員に行い、特に各教員の意識を調査したのち、学生・教員双方の調査結果に基づいた FD を行う予定である。 ・ まず新任教員のための島根大学医学部医学科の教育概要 FD を開始しており、今後上記

調査に基づいて FD を全教員に展開する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ (資料 16)令和 6 年度 FD 専門部会議事録議事要旨 ・ (資料 17)20250121 FD 資料島根大学医学部医学科教育の概要(FD 資料)

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ クリニカルスキルアップセンターが充実している。 ・ 情報教育施設としての「e ステーション」や、医学英語教育施設を整備して 6 年間を通じた医学英語教育を実施していることは評価できる。
改善のための助言
・ 令和 4 年 3 月に解剖献体の保管が不適切であることが発覚し、令和 4 年 4 月 27 日付けで文部科学省医学教育課から「医学及び歯学の教育のための献体に関する適切な対応の徹底について」との事務連絡によって解剖献体の管理業務に関する手順等の再確認など、厳正な献体の管理体制等の確立と徹底が求められた。島根大学では不適切事案の発覚後、直ちに学部内に「対策本部」を組織化して原因調査を行い、さらに外部有識者からなる「外部調査委員会」による第 3 者の視点からの調査も行った。その結果、医学部における献体業務に関わる組織体制の不備が一因であることが確認された。そこで、医学部としての再発防止策のため、「献体管理委員会」を組織化し、献体管理業務を整備し、再発防止に向けて抜本的な組織の見直しと管理体制の強化を図ることとなった。今回の実地調査において解剖献体が適切に保管されていることが確認できたが、今後とも引き続き解剖献体を適切に管理すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 令和 4 年以降、解剖学実習室などに安置・保管されている献体数、ご遺骨保管数を毎月定期的に確認し、適切に管理している。毎月の献体管理委員会において、献体の管理状況を報告している（資料 18）。再発防止にむけ、医学部内にご献体関連業務の改善に努めている（資料 19）。 再発防止を誓うため、問題が発覚した 3 月 10 日を「ご献体の日」と定め、教授や学生などが参加して毎年式典を開催している。
今後の計画
・ 献体管理委員会を中心とした管理体制を継続していく。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 18）開催通知 R6.11 献体管理委員会（令和 7 年 3 月 3 日開催令和 6 年度第 12 回献体管理委員会資料） ・ （資料 19）献体業務マニュアル改正案（令和 6 年度第 12 回献体管理委員会資料） ・ （資料 20）ご献体の日について（令和 6 年度第 12 回献体管理委員会資料）

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ キャンパスマスタープランとして継続的な施設整備計画を策定し、それらを経年的に実施している。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 個々の学生が十分な患者数と疾患分類の経験を積めるように現状の情報を収集したうえで、必要な資源を確保すべきである。 ・ 教育関連施設を含む臨床実習の指導者の質をより高めるために、FD 等の具体的な施策を充実すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 臨床実習・ PCC-OSCE 専門部会で、臨床実習の指導者の質をより高めるため、「診療科横断的な教育委員の連絡会など教員の質を上げるワーキング」を結成し、話し合いを行った(資料 21)。
今後の計画
・ 新設された FD 専門部会や、臨床実習・ PCC-OSCE 専門部会で、臨床実習の指導者の質をより高めるための FD を企画する。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 21）令和 6 年第 2 回教員の質を上げる WG 議事録(令和 6 年 7 月 11 日開催)

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 高度外傷センターを臨床実習に活用している。
改善のための示唆
・ より広い範囲の地域住民からの情報を収集し、臨床実習施設を整備することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

6.3 情報通信技術

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし

改善のための示唆
・ 病棟における学生優先の診療端末をさらに充実させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 学生優先の診療端末を各病棟などに導入しているが、医療従事者と同時に使用できるため、医療従事者優先になることが多い。学生用の診療端末を病棟以外のスペースに設置することを検討していく。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

6.4 医学研究と学識

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 1年次から6年次まで参加できる「医学研究の基礎」の科目を設定し、学生が医学の研究開発に携わることを奨励している。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

6.5 教育専門家

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ カリキュラム開発および評価方法の開発等に、教育専門家の利用についての方針をより明確に策定し、履行すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし

今後の計画
・ 医学教育専門家にカリキュラム開発および評価方法についての意見を聞くために、医学部医学教育プログラム委員会規程第 3 条に医学専門家を明記する改正を行い、同委員会で医学教育専門家を委員に加える方針である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 教職員の教育能力向上において、教育専門家をより一層活用することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ 教育専門家 2 名が FD 専門部会に属しており、助言を得ている（資料 22）。 ・ また、令和 7 年 1 月 21 日に新任教員への FD（本学科教育概要）を行っている（資料 17）。
今後の計画
今後も、新任教員のみならず全体への FD に教育専門家を活用していくことを検討していく。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 22）医学部委員会等構成員一覧表 ・ （資料 17）20250121 FD 資料島根大学医学部医学科教育の概要(FD 資料)

6.6 教育の交流

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 24 の海外大学と大学間交流協定や部局間交流協定を結び、交流を実践している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 学生の国内外の交流を促進するための経済的な資源をより充実させることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 従来の島根大学海外派遣学生支援制度による奨学金に加え、後援会寄付金より旅費や授

業料の一部補助を行っているが、不十分な可能性があるため、アンケート等を行い、今後の充実を医学部予算委員会で検討する。

改善状況を示す根拠資料

・ なし

領域 7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 収集された情報を医学教育評価委員会（SMERC-C）で分析・評価し、医学教育プログラム委員会（SMERC-PA）で改善する仕組みを設けている。
改善のための助言
・ カリキュラムの教育課程と学修成果について、医学部 IR 委員会を含め定期的にモニタする仕組みを実質化すべきである。 ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応について、教育プログラムを評価する仕組みを整備して、確実に実施し、その結果をカリキュラムに適切に反映すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 島根大学医学部の教育課程の PDCA サイクルを有効に実行すべく設置された SMERC-PA/D/C が適切に運営されているかを確認するために、医学教育会議が活動できるように改組し、さらに、医学科長と医学教育会議、医学教育分野別評価専門委員会と協働できるように体制を整備した(資料 23,24)。
今後の計画
・ 教育プログラムの課程と成果について、適切に医学部 IR 委員会が情報分析できるように、協働して活動する医学教育支援センター(仮)について検討中である。 ・ 教育プログラムを評価する仕組みに関しては、学生、教員アンケートを行い、医学部 IR 委員会での分析をもって医学科長と医学教育会議での検討を行う予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ (資料 23)令和 7 年度第 1 回医学部教授会資料・医学部医学教育会議規定の一部改正(案)について ・ (資料 24)令和 7 年度第 1 回医学部教授会資料・医学部学科長に関する規則の一部改正(案)について

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果について、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 早期に学修成果の可視化のためにアンケート等を行う。さらに今後アセスメントポリシー、アセスメントプランの改定・策定を行う予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし

改善のための助言
・ 教員と学生から、教育プログラムに関する系統的なフィードバックを求めるべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 網羅的な調査として医学教育評価委員会(SMERC-C)が学修到達目標達成に関するアンケート調査を行う予定である。
・ 学生と教員に対して、全学年毎の学修到達目標達成のために十分なカリキュラムが提供できているか、医学教育評価委員会(SMERC-C)が中心となってアンケート調査を早期に行う。
・ 毎年度継続的に情報収集を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 教員と学生からの教育プログラムに関する系統的なフィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 教育プログラムの課程と成果について、適切に医学部 IR 委員会が情報分析できるように、協働して活動する医学教育支援センター(仮)について検討中である。
・ 学生と教員に対して、全学年毎の学修到達目標達成のために十分なカリキュラムが提供できているか、医学教育評価委員会(SMERC-C)が中心となってアンケート調査を早期に行う。
・ 毎年度継続的に情報収集を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 地域枠学生と地域枠卒業生に対する実績調査を、継続的に行っている。
改善のための助言
・ 使命と意図した学修成果やカリキュラムの観点から、学生と卒業生の実績を分析すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 学生と卒業生に対する実績調査をできるように、医学教育支援センター(仮)、卒後臨床研修センター、同門会が連携できるよう体制整備を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 背景と状況や入学資格の観点から、地域枠だけでなくすべての入学枠の学生と卒業生の実績をさらに分析し、責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 学生と卒業生に対する実績調査をできるように、医学教育支援センター(仮)、卒後臨床研修センター、同門会が連携できるよう体制整備を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 教育プログラムのモニタを実施する医学部 IR 委員会、プログラムの評価を実施する医学教育評価委員会（SMERC-C）に、教育に関わる主要な構成者が参加している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学教育評価委員会（SMERC-C）の業務改善のために、教育に関わる構成委員および医学教育会議委員から継続的なアンケート、ヒアリングを行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 卒業生の実績やカリキュラムについて調査ができるように、医学教育支援センター(仮)、卒後臨床研修センター、同門会が連携できるよう体制整備を行う。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 教学に関わる各組織の大学内での位置づけと役割について、相互の関係性を含めてより明確にすべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 令和 6 年第 4 回教授会において医学教育会議を設置した（資料 25）。 ・ 令和 7 年第 1 回教授会で同会議規程の改訂を行い、その医学教育の基本方針の策定や実施についての支援組織としての位置づけを明確にするとともに、医学部学科長に関する規則も改訂し、医学教育の改善における中心的な役割を明確にした（資料 23, 24）。
今後の計画
・ 教学に関わる各組織が相互に有機的に働いているか、分野別医学評価委員会で定期的に検証する。
改善状況を示す根拠資料
・ （資料 25）令和 6 年度第 4 回教授会資料・医学部医学教育会議規定 ・ （資料 23）令和 7 年度第 1 回医学部教授会資料・医学部医学教育会議規定の一部改正（案）について ・ （資料 24）令和 7 年度第 1 回医学部教授会資料・医学部学科長に関する規則の一部改正（案）について

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 教授会および医学・看護学系会議の議事要旨について、学内教職員の参照を可能としている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

8.2 教学における執行部

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学教育における教学のリーダーシップの責務は、医学部規則、医学部副学部長設置規則、医学部学科長に関する規則、医学部教務学生委員会規程、医学部医学教育プログラム委員会規程、医学部医学科医学教育評価委員会規程、医学部入学試験管理委員会規程等によって規定されている。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容

・ 令和6年第4回教授会において医学教育会議を設置した（資料25）。 ・ 令和7年第1回教授会で同会議規程の改訂を行い、その医学教育の基本方針の策定や実施についての支援組織としての位置づけを明確にするとともに、医学部学科長に関する規則も改訂し、医学教育の改善における中心的な役割を明確にした（資料23, 24）。
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ （資料25）令和6年度第4回教授会資料・医学部医学教育会議規定 ・ （資料23）令和7年度第1回医学部教授会資料・医学部医学教育会議規定の一部改正（案）について ・ （資料24）令和7年度第1回医学部教授会資料・医学部学科長に関する規則の一部改正（案）について

質的向上のための水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ 教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行われることが望まれる。
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ 医学部自己点検評価委員会規程の改訂を行い、教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うことを計画する。 ・ また、医学部自己点検評価委員会での教学における執行部の評価が行われ公表されているか、医学教育分野別認証評価委員会で定期的に検証する。
改善状況を示す根拠資料
・ なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 教育関係予算については、医学部予算委員会規程に基づき教育基盤経費、教養教育経費、学外実習経費、教育設備維持運営費および教育上の要請に沿って必要な教育重点事項に関して、医学部予算委員会において審議ののち、教授会にて決定している。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 「島根大学優良教育実践表彰制度」を設けて、優れた教育活動を評価している

改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 事務系職員の研修として、階層別能力開発研修や自己啓発支援制度プログラム、コンプライアンス・プログラムが実施されている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 「市民生涯学習支援室」、大田総合医育成センターやしまね地域医療支援センター等で地域社会や行政の保健医療関連部門と建設的な交流を持っていることは 評価できる。
改善のための助言
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画

・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準： 適合
特記すべき良い点（特色）
・ 「地域医療支援学講座」、「総合医療学講座」などをとおして保健医療関連部門との協働を構築している。 ・ クリニカルスキルアップセンターで、近隣の医療機関における医療シミュレーション教育担当者の育成を行っている。
改善のための示唆
・ なし
関連する教育活動、改善内容
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 9. 継続的改良

基本的水準： 部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ 教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定すべきである。
関連する教育活動、改善内容
・ 学修成果・コンピテンシーについて、各授業前にアナウンスすることが促進されており、学生の学習意欲向上に寄与してきている(資料 26, 27)。
今後の計画
・ 医学部教育評価委員会（SMERC-C）とは独立して医学部 IR 委員会はデータ収集・管理・分析を行うことが出来る組織体制が整ったが、さらに、適切に医学部 IR 委員会が情報分析できるように、協働して活動する医学教育支援センター(仮)について検討中である。 ・ 網羅的な調査として医学教育評価委員会(SMERC-C)が学修到達目標達成に関するアンケート調査を行う予定である。 ・ また学生と教員に対して、全学年毎の学修到達目標達成のために十分なカリキュラムが提供できているか、医学教育評価委員会(SMERC-C)が中心となってアンケート調査を早期に行う。 ・ 教育プログラムを評価する仕組みに関しては、学生、教員アンケートを行い、医学部 IR 委員会での分析、医学教育評価委員会(SMERC-C)で評価を行い、医学科長のリーダーシップの元、フィードバックを行う予定である。 ・ 毎年度継続的に情報収集を行う予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ (資料 26) 入学時オリエンテーション資料 ・ (資料 27) 2 年生オリエンテーション資料

質的向上のための水準： 評価を実施せず
特記すべき良い点（特色）
・
改善のための示唆
・
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・
改善状況を示す根拠資料
・